

平成23年度 第2回企画運営委員会(H24年3月)【追跡評価】

	研究課題名	評価項目	点数	コメント
1	高齢者・障害者のための福祉交通環境整備に関する研究 - コミュニティバス導入後の地域モビリティ評価に関する研究 -	直接的効果	4.8	<p>・県内市町は多様な性格を有するのでさらなる事例研究の実施が必要である。</p> <p>・バス輸送の形態が変わっていく時代に、調査データを基に地域と議論しながら必要な交通計画を企画するという実験的に確立したスタイルが、現在の地域の交通計画を立てる際の方法論として取り入れられようとしている点で高く評価されるものである。</p> <p>・必要な時間と経費に関する考察が加えられていれば、更に優れた研究結果となったと考える。</p>
		副次的・波及的效果	4.5	
		県施策への貢献	4.5	
		今後の発展・フィードバック効果	4.5	
		計	18.3	
2	高齢者・障害者の安全対策機器等に関する研究	直接的効果	4.8	<p>・臨床スタッフと共同して、摂食時に良好な嚥下を行うための姿勢を作り出すための計測装置とその方法を開発した。また、車いす使用者のためのテーブルの開発も行っている。これらが、まず、中央病院で受け入れられるようになったことは評価できる。また、それらを一般でも使いやすいものにするための研究につないでいるようで、望ましい方向性といえる。</p>
		副次的・波及的效果	3.8	
		県施策への貢献	4	
		今後の発展・フィードバック効果	4.5	
		計	17.1	
3	走行環境と車いすの構造が車いす使用者の身体におよぼす影響と快適性に関する研究	直接的効果	4.8	<p>・路面環境と身体振動の関係を定量的に評価し、13種類の歩車道境界縁石を試験したことで、相対的な評価が可能となった。また、その結果が国土技術研究センター編集のガイドラインに反映されるなど、有意義な研究であったと考える。</p>
		副次的・波及的效果	4.7	
		県施策への貢献	5	
		今後の発展・フィードバック効果	4.5	
		計	19	
4	下肢切断者等の歩行訓練支援システムに関する研究	直接的効果	4.8	<p>・大腿義足歩行の評価に加速時計を用いて、理学療法士にも分かりやすい指標を作り出し、義足歩行訓練の質が向上した点は評価できる。これが臨床的にいつでも使うことができるシステムになれば、より大きな効果が期待できるので、さらに研究をすすめることを望む。</p>
		副次的・波及的效果	4	
		県施策への貢献	4	
		今後の発展・フィードバック効果	4.3	
		計	17.1	

点数:各評価項目を5点満点で採点(各委員の平均点数)。